



学校だより

学校教育目標

郷土を誇りに思い、未来社会を生き抜く児童生徒の育成

唐津市立加唐小中学校

第7号

令和3年7月7日発行

文責 校長 宮地 浩幸

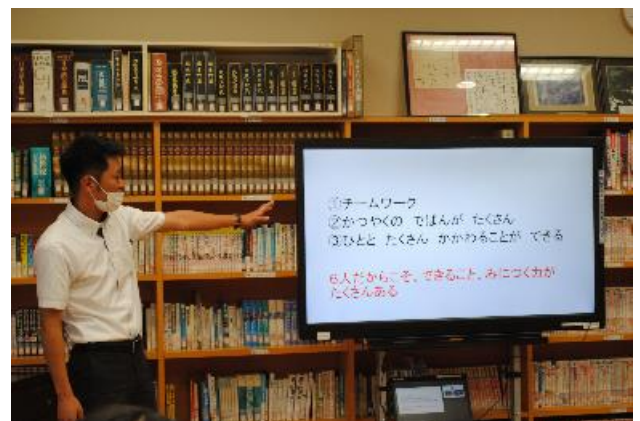
授業参観ありがとうございました。

6月12日(土)に授業参観を行いました。保護者の皆様には参観をいただきありがとうございました。職員も子ども達も少し緊張気味でしたが、普段通りの様子をお見せすることができたと思います。前任校でも授業参観は行っていましたが、保護者の中には子どもに遠慮して、教室に入らない方がいらっしやいました。もちろんそこには、中学生としての心理的発達段階、俗にいう反抗期の問題があり、難しいものがありますが、本校においては保護者と子ども達の間にもそのような壁を感じる事が無いのはとても微笑ましい事です。ご家庭での保護者の協力の様子や子どもとの関係性を垣間見るようで安心感が持てます。このような状況は今後も是非継続して欲しいことです。



6と700

6月22日(火)ほんわかタイムを実施しました。今回は岡先生のお話でした。まず岡先生から6と700の数字の提示がありました。子ども達に連想するものを尋ねられると6については、本校の児童生徒の総数であることをすぐに答えることができました。では700については、どうかというと、小学校高学年以上は、児童生徒の数に関係することは察しがついたようですが、小学1,2年生には、人に関わる数字くらいまでしかわかりませんでした。岡先生の前任校は、鳥栖市内のマンモス校です。その生徒数が約700人です。人数だけでいえば、本校より100倍以上大きな学校ということになります。岡先生は、昨年度までの教育活動を振り返り、本校では児童生徒の活躍できる機会が前任校より圧倒的に多いことを指摘されました。例えば、本校の児童生徒は毎日交代で放送当番を行います。大きな学校では1部の人たちしかその仕事に携わることができません。体育大会の出場種目も本校の児童生徒の方が圧倒的に多いのです。



今年は、本校で水泳の授業を行っています。子ども達の様子を見てるととても楽しそうです。校長室まで、その楽し気な叫び声は聞こえてきます。大きなプールを子ども達が悠々と使用している状況を見れば、なんと恵まれた状況かと思ってしまう。市内の学校では、密を避けられずに水泳を中止してい

る学校もあります。このようなことでも小規模校の強みが十分に発揮されています。

県中体連大会

6月26日（土）、6月27日（日）に、佐賀市のSAGA サンライズパーク庭球場で県中体連テニス競技大会が実施されました。本校のテニス部（中学2年生女子生徒1名）も個人戦の予選会（別日日程）を勝ち上がり、本戦への出場を果たし、見事に初戦突破をしました。初戦を迎えるにあたり少し緊張気味で、はじめは思うように体が動かず、少し苦戦を強いられましたが、気持ちを切り替えて、落ち着きを取り戻すと普段の練習の成果を発揮することができたと思います。

昨年度テニス部を創設しましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、昨年度の中体連には参加制限があり、出場が叶いませんでした。従って今年初めての参加になったわけですが、今回の成績を見ると日頃きちんと練習できた事の成果が表れているようでうれしく思います。本校の教育の基本方針として「知、徳、体のバランスの取れた児童生徒の育成」を考えていますので、勉強もスポーツも一生懸命に頑張ることができるよう奨励します。毎日、部活動で培っていることは、子ども達の日頃の勉強や生活に必ず反映されているはずです。今回の成果もまた子ども達の学力の向上の一助になるものと考え、気持ちを新たに、次の目標に向けて頑張ることができるよう期待します。



1人1台タブレット端末配布

私自身、日本人の勤勉さは目を見張るものがあると思います。これは、これまでの日本の教育が下支えしていたことは間違いないと思います。江戸時代の日本人の識字率は世界でもトップクラスだったそうです。そして、読み、書き、そろばん（子ども達はそろばんを知らないかもしれませんが。計算力の代名詞としてよく使われます。）は、勉強の基礎として、日本人には定着してきたものです。個人的な意見としては、今でもそれは変わっていないと思っています（読む力、書く力、計算する力は絶対です）。そして日本の伝統的な教育は先人の知恵と技を習得することに力を入れてきました。

それでも、先が見通せない未来社会の担い手となる子ども達にとっては、もっと別の力が必要になると考えられています。それが、これまで修得した知識や技能をどう活用できるかという力です。また、情報がネット上に溢れています。それは、個人が一人で処理できるようなレベルではありません。だからAIが発達し、私たちの生活を助けてくれるようになってきました。これからの社会の中で、情報機器はノートや鉛筆のような学習するための必要なツールになってきているのです。ところが、情報機器を使ったICT教育は世界の中で日本よりずっと進んだ国があることも事実です。また、子ども達の能力に合わせた「個別最適化の学び」がキーワードになり、個人のニーズに合わせた学びがICT機器を用いてできないか検討が重ねられています。そこで日本でも、タブレット端末を児童生徒一人に1台配布し、「個別最適化された学び」の一助になるよう取り組みが始まります。これがGIGA（ギガ）スクール構想です。今後、先生方によるタブレット端末を使った新しい授業が始まろうとしています。いくつかの学校で先行研究が行われています。佐賀県はICT利活用教育には、全国を先駆けて取り組んできています。もうすぐ、子どもたち一人ひとりにタブレット端末が貸与されます（学校でも準備を進めています）。適切なタブレット端末の使用による学力の向上を期待します。

